

科目名	地球環境学	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			全学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Global Environmental Studies	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	むらなか たかし	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	村中 孝司	修得単位	2単位
授業のテーマ	我々人類が直面している地球環境問題・生物多様性問題について、人間社会の視点から学ぶ。		
授業概要	2011年、世界人口は70億人を突破した。一方、地球上の資源には限りがある。私たち人類はその限りある資源の中で生きていかなくてはならない。講義では、地球環境問題、生物多様性、農業問題など、人間生活や社会に密接に関わりのある環境問題について紹介する。		
到達目標	人間社会の発展と地球環境の保全の両立をどのように考えていけばよいか。		
授業時間外の学習	地球環境問題、生物多様性問題について、日頃からよく考え、新しい情報を入手しておくこと。		
履修条件	特になし。		
授業計画			
第1回	ガイダンス 豊かさと環境問題		
第2回	公害と環境問題の歴史 産業革命と工業化、公害、大気と水		
第3回	地球温暖化 地球温暖化の原因と影響、フィードバックループ		
第4回	オゾン層破壊 オゾン層の生成と消失、フロン類、人体や自然界への影響		
第5回	酸性雨・酸性霧・酸性雪 pH、酸性雨の原因と影響		
第6回	水質汚濁と化学物質汚染 富栄養化、農薬・除草剤、重金属類、海洋汚染、生物濃縮		
第7回	砂漠化と森林破壊 農業形態のあり方の変化による土地の劣化、過放牧、過耕作		
第8回	生物多様性 生物多様性とは何か、生物多様性の階層		
第9回	生物多様性を脅かす3つの要因① 開発・乱獲、分断・孤立化、管理放棄		
第10回	生物多様性を脅かす3つの要因②、生態系サービス 外来生物の侵入による影響、生態系サービス		
第11回	環境の修復と環境アセスメント 自然保護制度、回避・低減・代償、アセスメントの実態		
第12回	環境価値の評価 環境の経済的価値、仮想評価法、トラベルコスト法など		
第13回	エネルギー問題 化石燃料エネルギー、自然エネルギー		
第14回	循環型社会の構築 里山の利用、3Rとゴミ問題、ライフサイクルアセスメント		
第15回	世界人口と食料問題 食料自給率、フードマイレージ		
第16回	定期試験		
テキスト	授業中に紹介する。		
参考文献・資料	植田和弘・大塚直『環境と社会』放送大学 御代川貴久夫『環境科学の基礎(改訂版)』培風館		
成績評価の方法	【定期試験(60%)、レポート(30%)、授業中の課題(10%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テスト等を行います。 ・レポート課題は授業内又は掲示板で指示します。 <成績評価の基準> ・平成28年度以降入学者 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ・平成27年度以前入学者 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	火曜 14:40~16:10、金曜 13:00~14:30		
学生へのメッセージ	環境問題を知ること・理解することは、私たちが生きていくためそのものです。		

科目名	ミクロ経済学 I	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)	
			経済学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Microeconomics I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年	
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中	
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位	
授業のテーマ	ミクロ経済学における消費理論及び市場の理論を中心に学習し、発展的な学習に必要な基盤を養成する。経済学的な合理性を理解し、経済学の視点を学ぶ。			
授業概要	ミクロ経済学 I では、消費理論を重点的に学習する。表面的理解だけでなく、諸理論の導出についても、丁寧に解説することで、到達水準を低下させないように心がける。			
到達目標	この授業では、ミクロ経済理論の学習を通じて「考える力」の向上を目指す。さらに、期末試験では、公務員の専門試験問題も出題するなど、基本的な受験力の向上も目指す。			
授業時間外の学習	定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。			
履修条件	入門経済学やマクロ経済学 I を履修済み、または同時に履修していることが望ましい。			
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。			
第1回	テーマ：ガイダンス ミクロ経済学の全体像			
第2回	テーマ：消費理論① 選択と予算制約。「予算で買える物の組み合わせを図示しよう」			
第3回	テーマ：消費理論② 選択と予算制約。「価格が変化すれば、予算の購買力も変化する？」			
第4回	テーマ：消費理論③ 消費者選好の諸仮定。「柿より梨が好きで、梨よりも苺が好き。でも苺より柿が好き？」			
第5回	テーマ：消費理論④ 消費者選好の諸仮定。「ビールだけ、焼き鳥だけでは満足できない。一緒に食べたい」			
第6回	テーマ：消費理論⑤ 無差別曲線の導出。「あなたのビールと私の焼き鳥3本を交換して下さい」			
第7回	テーマ：消費理論⑥ 限界代替率とその逓減。「ビールと焼き鳥の交換を続けると、その比率はどう変化するのか？」			
第8回	テーマ：消費理論⑦ 無差別曲線と効用関数。「無差別曲線は等高線！！」			
第9回	テーマ：消費理論⑧ 限界効用逓減の法則。「ビールは最初の一口が最も美味しい」			
第10回	テーマ：消費理論⑨ 最適消費ベクトルの満たすべき条件。「予算線と無差別曲線の接点が意味すること」			
第11回	テーマ：消費理論⑩ 加重限界効用均等の原則と需要関数。「何を買い足し、何を諦めるか？」			
第12回	テーマ：消費理論⑪ 代替効果と所得効果。「価格が変化すると最適消費ベクトルはどう変化するのか？」			
第13回	テーマ：消費理論⑫ 負の所得効果とギッフェン財。「価格が上がると、需要は増える？それは間違いか？」			
第14回	テーマ：市場と需要① 需要関数の詳しい説明。需要の決定要因は価格だけか？所得、好み、流行は無関係か？			
第15回	テーマ：市場と需要② 需要の価格弾力性。「売上増加には、値上げか？それとも値下げか？」			
第16回	定期試験			
テキスト	井堀利宏『入門ミクロ経済学 (第2版)』新世社、2010年			
参考文献・資料	ロバート・ドーファン『価格の理論』東洋経済、1965年(考え方が詳しい)			
成績評価の方法	期末試験 60%、課題 30%、コメントシート 10%の合計を基に評価する。 確認問題を配布する。受講者は自らの理解度を確認するためにも必ず解答すること。 試験については努力が報われるような出題を心がける。			
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降に入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。			
オフィスアワー	月・水・金曜日の5限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中は原則として質問に応じる。			
学生へのメッセージ	ミクロ経済学はマクロ経済学とともに、経済学の基盤を形成している。ミクロ経済学を学ぶことで、我々の合理性を再認識し、自らの意思決定を見つめ直して欲しい。			

科目名	地域づくり論	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経・法	経・法
英文表記	Regional Economy	開講年次	□1年 ■2年 ■3年 ■4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業のテーマ	わが国の新たな輸出産業は「日本の文化」だといわれる。世界が注目するクール・ジャパンとは何か？ 地方創生法の施行は、従来の地域づくりにとはどのように変わっていくのかを考察する。			
授業概要	成熟化した日本経済とクール・ジャパン			
到達目標	地方創生法による地域の再生。自分に何ができるか、可能性を探る。			
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと			
履修条件	地域に関心を有していること			
授業計画				
第1回	地域とは何か～地域政策の変遷			
第2回	地域協働とコミュニティ再生(1)～江戸時代の割地と川端(かばた)を事例として			
第3回	地域協働とコミュニティ再生(2)～沖縄国頭村の共同店舗と道の駅			
第4回	世界的な潮流としてのソーシャルビジネス(社会起業)			
第5回	欧州のソーシャルビジネスを支えるソーシャルファイナンス(意思のあるお金)			
第6回	我が国のソーシャルビジネス(社会起業)事例			
第7回	我が国のソーシャルビジネスを支える新たなファイナンス～クラウド・ファインディング			
第8回	インバウンド観光と地方経済の活性化～DMO			
第9回	ソーシャル・インパクト投資～ARUN合同会社			
第10回	TPPと地方農業の革新～新潟のICT農業			
第11回	震災復興と地域協働～コミュニティの再生			
第12回	中心市街地の活性化と秋田～外旭川のイオンモール計画			
第13回	秋田におけるNPO・コミュニティビジネス・スモールビジネス			
第14回	秋田の地域づくりとは～秋田のNPO・コミュニティ・ビジネスが抱える問題			
第15回	地方創生法の概要～国家戦略特区とハンズオン投資			
第16回	期末試験			
テキスト	プリント配布			
参考文献・資料	追って連絡します			
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。			
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降入学した学生】 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。			
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日			
学生へのメッセージ	高齢化が進む中でコミュニティを再生するとともに地域経済を活性化する方策を学びます。			

科目名	マクロ経済学 I	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Macroeconomics I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	畠山 光史	修得単位	2単位
授業のテーマ	マクロ経済学への入門授業です。		
授業概要	本授業では、マクロ経済学の考え方のうち重要概念である GDP、総需要、有効需要、乗数理論、貨幣、流動性選好理論および IS-LM 分析について学習し、これらの知識を前提として「閉鎖経済」下でのマクロ経済政策効果を分析します。		
到達目標	学生は、マクロ経済学の基礎概念および基本的な分析手法を習得できる。		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください。		
履修条件	前提知識は想定していない。しかし、経済学入門および現代経済入門の知識があれば理解が容易になる。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	GDP の考え方 1 (GDP 統計の 3 大原則)		
第3回	GDP の考え方 2 (名目 GDP と実質 GDP)		
第4回	財市場 1 (総需要の構成要素)		
第5回	財市場 2 (45 度線分析)		
第6回	財市場 3 (有効需要の原理)		
第7回	財市場 4 (乗数理論)		
第8回	前半のまとめ		
第9回	資産市場 1 (貨幣とは何か)		
第10回	資産市場 2 (ケインズの流動性選好理論)		
第11回	IS-LM 分析 1 (生産物市場の均衡—IS 曲線)		
第12回	IS-LM 分析 2 (貨幣市場の均衡—LM 曲線)		
第13回	IS-LM 分析 3 (生産物市場と貨幣市場の同時均衡分析: IS-LM 分析)		
第14回	経済政策の有効性 (財政政策・金融政策の効果)		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	吉川洋 「マクロ経済学 (第4版)」 岩波書店 (2017) ブランシャール 「マクロ経済学 (上)」 東洋経済新報社 (1999) など		
成績評価	【成績評価の方法】小テスト(20%)、定期試験(80%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合は試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行います。 【成績評価の基準】 平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)		
オフィスアワー	① 毎週月曜 3時限目 ②毎週木曜 2時限目		
学生へのメッセージ	経済理論系の科目は、授業後の復習を行うとともにインターネット、テレビ、新聞、雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。		

科目名	経済学史 I	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 □必修 □選択
英文表記	The History of Economic Thoughts I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	しまだ こうや	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	嶋田 耕也	修得単位	2単位
授業のテーマ	古典学派から新古典派へ		
授業概要	アダム・スミスの経済学とは何か。それを引き継いだリカード、マルクスは何を発展させたのか。そして新古典派は、スミスの何を受け継ぎ、何を放棄したのか。		
到達目標	学説によって社会の見方が変化するのを理解する。		
授業時間外の学習	日頃の現実的な経済問題が経済学説に直結しています。学説史は皆さんの現実的な経済への関心によって理解が進みます。		
履修条件	経済学史Ⅱも履修することが望ましい。		
授業計画			
第1回	経済学全体の大きな流れ		
第2回	アダム・スミス 経済学の父		
第3回	アダム・スミスと重商主義		
第4回	アダム・スミスの経済理論		
第5回	リカードの経済理論		
第6回	マルクスの経済理論		
第7回	マルクスの資本論		
第8回	新古典学派 ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー		
第9回	効用価値学説と限界革命		
第10回	市場の経済学 1		
第11回	市場の経済学 2		
第12回	市場の経済学 3		
第13回	市場の経済学 4		
第14回	市場の経済学 5		
第15回	ケインズの登場		
第16回	定期試験		
テキスト	中村達也・新村聡・八木紀一郎・井上義朗(2001)『経済学の歴史』有斐閣を薦める。		
参考文献・資料	講義中に適宜、紹介する。		
成績評価の方法	定期試験(70%)、レポート提出(30%)		
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降に入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		
オフィスアワー	水曜日に来訪してください。		
学生へのメッセージ	18世紀の経済学者アダム・スミスとその継承者を理解しよう。		

科目名	簿記入門 I	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	くにいのりお	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	國井法夫	修得単位	4単位
授業のテーマ	日商簿記検定試験3級に合格する。		
授業概要	3級の範囲をわかりやすく説明する。		
到達目標	日商簿記3級合格		
授業時間外の学習	宿題を出しますので、必ずやってくること。		
履修条件	欠席をしない。欠席をするとわからなくなります。		
授業計画			
第1回	簿記の意味・目的・種類	第17回	売掛金と買掛金(2) 買掛金とは その処理
第2回	簿記の基礎概念(1) 資産・負債・資本について	第18回	その他の債権と債務(1) 貸付金・手形貸付金等の処理
第3回	簿記の基礎概念(2) 費用と収益について	第19回	その他の債権と債務(2) 未収金・未払金等の処理
第4回	取引と勘定と仕訳(1) 経済取引を仕訳にする	第20回	手形(1) 手形とは
第5回	取引と勘定と仕訳(2) 経済取引を仕訳にする	第21回	手形(2) 手形の処理方法
第6回	帳簿の記入 帳簿への記入方法	第22回	有価証券・固定資産
第7回	決算と財務諸表(1) 貸借対照表について	第23回	減価償却 減価償却とは その処理方法
第8回	決算と財務諸表(2) 損益計算表について	第24回	資本金と引出金 処理方法について
第9回	現金預金取引(1) 現金等の処理	第25回	試算表の作成 仕訳から総勘定元帳への転記の確認
第10回	確認小テスト	第26回	税金、帳簿と伝票 3伝票制の処理について
第11回	現金預金取引(2) 当座預金の処理	第27回	決算と財務諸表 決算手続きについて
第12回	現金預金取引(3) 当座・当座買い越しについて	第28回	決算と財務諸表 売上原価の計算とその処理について
第13回	商品売買(1) 分記法	第29回	決算と財務諸表 費用収益の繰延べと見越し等
第14回	商品売買(2) 3分法について	第30回	精算表等の作成
第15回	売掛金と買掛金(1) 売掛金とは その処理	第31回	損益計算書と貸借対照表の作成
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験
テキスト	滝澤みなみ著『簿記の教科書日商3級』TAC 演習用プリント		
参考文献・資料			
成績評価の方法	試験の得点 (60%)・レポート提出 (10%)・学習態度 (30%) 等で総合評価します。		
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		
オフィスアワー	木曜日 5時間目		
学生へのメッセージ	休まないこと。欠席が成績に直結します。		

科目名	国際経済学Ⅱ	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	International EconomicsⅡ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	さかもと こういち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	坂元 浩一	修得単位	2単位
授業のテーマ	国際経済取引について、仕組みと現状を理解する。		
授業概要	本講義は国際経済学Ⅰを踏まえて開講されます。国際経済取引の主な構成要素の続きとして、証券投資を扱います。その後に、国際経済の制度と政策を論じます。時間が許す場合、経済協力を扱います。そして、日本に加えて、事例国を挙げて説明します。国際金融の詳細は、将来開講の国際金融論で扱います。		
到達目標	国際経済取引の全体と主な活動と制度・政策を十分に理解できるようになります。経済関係の新聞や雑誌を読めるようになります。		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。 ・日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。 		
履修条件	ミクロ経済学とマクロ経済学を履修していることが望ましいです。しかし、未履修でも本授業に積極的に取り組むことにより、好成績で単位を取得できます。		
授業計画			
第1回	イントロダクション (主な内容、アプローチ)		
第2回	証券投資、金融市場、世界経済の動き		
第3回	金融の基本		
第4回	証券投資 (基本のみ。詳細は将来開講される国際金融論で扱う)		
第5回	国際経済制度		
第6回	国際金融制度		
第7回	主な国際経済・金融政策		
第8回	2008年の世界金融危機までの歴史		
第9回	世界金融危機後の動向と今後の方向		
第10回	経済協力		
第11回	事例国： 欧米の国々		
第12回	事例国： 東南アジアなど発展途上国		
第13回	事例国： 中国など新興国		
第14回	事例国： 貧困国 (アフリカなど)		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	なし		
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論—総合的理解から次の一歩まで—』大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力量マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頸草書房、1996年。		
成績評価の方法	【小テスト・レポート (40%)、定期試験 (60%)】		
成績評価基準	【平成27年度 (2015) 以前に入学した学生】 優 (100~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下) 【平成28年度 (2016) 以降入学した学生】 秀 (100~90点)、優 (89~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		
オフィスアワー	月曜日・火曜日 14:40~16:40 (それ以外の日時でも在室時は相談に応じます)		
学生へのメッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解してください。国際経済取引の理解は、企業での仕事では当然であり、また日々の生活でも役に立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんが国際経済をより身近に捕らえられるようになると考えます。		

科目名	金融機関論	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	The theory of FIMs	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	しんようくみあい やまもとしゆん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	信用組合 山本 俊	修得単位	2単位
授業のテーマ	金融機関の社会的な役割を、情報生産の観点から学習する。		
授業概要	金融機関の情報生産活動に注目し、情報の非対称性に起因する金融機関の本質的な役割を学ぶ。例年、信用組合様よりご協力を頂き、実務家視点に立った実践的な講義も実施している。多くの受講生の参加を期待する。		
到達目標	金融機関の主要な役割は資金供給と同時に情報生産活動にある。この情報生産の側面を学習し、金融機関の役割を社会的な視点から理解できるようになること。		
授業時間外の学習	定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。		
履修条件	ミクロ経済学Ⅱと現代ファイナンス論Ⅰ・Ⅱを履修済みか、または同時履修して欲しい。		
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。		
第1回	テーマ：金融機関の役割。情報生産活動とは何か？ 貸せる力の根底にあるもの。		
第2回	テーマ：日本の金融機関の現状 金融機関の定義と金融業の産業組織、銀行の貸借対照表と損益計算書		
第3回	テーマ：金融機関の情報生産活動の基礎 モニタリング、スクリーニング、情報の非対称性		
第4回	テーマ：信用組合講師による講義① 例年の講義テーマは「信用組合とその他の金融機関」		
第5回	テーマ：信用組合講師による講義② 例年の講義テーマは「信用組合の業務」		
第6回	テーマ：信用組合講師による講義③ 例年の講義テーマは「信用組合の地域社会における役割」		
第7回	テーマ：金融機関の情報生産活動による経済効果① 情報の再利用可能性、規模の経済性		
第8回	テーマ：金融機関の情報生産活動による経済効果② 平均費用曲線と銀行間合併の経済学的根拠		
第9回	テーマ：情報の非対称性と信用割当 逆選択		
第10回	テーマ：銀行業発達史① 鎌倉時代から終戦まで、		
第11回	テーマ：銀行業発達史② 戦後日本の金融制度の特徴、利益相反		
第12回	テーマ：銀行業発達史③ メインバンク制度		
第13回	テーマ：銀行預金とデリバリーチャンネル 店舗網やATMは重要か？		
第14回	テーマ：部分準備制度と信用創造機能。		
第15回	テーマ：銀行の市場規律。バンク・ラン、預金保険制度、自己資本比率規制。		
第16回	定期試験		
テキスト	晝間文彦『基礎コース金融論』（第3版）、2011年（現代ファイナンス論と同じテキストです。）		
参考文献・資料	藤波大三郎『はじめて学ぶ銀行論』創成社、2012年（丁寧に分かりやすく、新しい内容も含んでいる）		
成績評価の方法	期末試験60%、課題30%、コメントシート10%の合計を基に評価する。 確認問題を配布する。受講者は自らの理解度を確認するためにも必ず解答すること。 試験については努力が報われるような出題を心がける。		
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		
オフィスアワー	月・水・金曜日の5限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中は原則として質問に応じる。		
学生へのメッセージ	いかなる分野で活躍するにも、金融機関との関係は長く続く。よって、金融機関の社会的な役割と金融機関の情報生産の側面を理解しておくことは有用である。		

科目名	サービス・マーケティング論	科目分類	<input type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ)
			<input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)
英文表記	Service Marketing	開講年次	<input type="checkbox"/> 経済学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
			<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	さかもと こういち	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	坂元 浩一	修得単位	2単位
授業のテーマ	サービス業のマーケティングについて、一般的な戦略や方針と具体的な事例を学ぶ。		
授業概要	<p>本講義は、マーケティングの重要な構成要素としてのサービス業を対象とするものであろう。小売業など主な業界の実態を把握した後に、当該企業が採るマーケティングの戦略や方針を理解します。グローバル化する今日に鑑みて、日本および世界の多国籍企業についても論じます。本講義は、「マーケティング基礎論」と同時に開講されます。</p> <p>教員の豊富な海外経験を踏まえて、主要国・都市におけるマーケティングの実際を学びます。取り上げる都市は、パリ、ロンドン、上海、バンコック(タイ)などです。</p>		
到達目標	サービス業のマーケティングについて、全体的内容と主要業種・企業の戦略・方針を十分に理解できるようになります。サービス・マーケティングに関するニュースを理解できるようになります。		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。 ・日頃から日本経済新聞やその他の新聞の経済欄に目を通すようにしてください。 		
履修条件	同じ学期に本教員が開講する「マーケティング基礎論」を履修することが望ましいです。		
授業計画			
第1回	イントロダクション (主な内容、アプローチ)		
第2回	経済、経営におけるサービス・マーケティング		
第3回	サービスの分類		
第4回	サービス業に関わる政策 (経済政策、産業政策)		
第5回	サービス業のマーケティング戦略 (1)		
第6回	サービス業のマーケティング戦略 (2)		
第7回	グローバル化とサービス特性		
第8回	サービス業のグローバル・マーケティング戦略		
第9回	日本及び世界の多国籍企業のマーケティング戦略		
第10回	事例業種：小売業		
第11回	事例業種：レストラン業		
第12回	事例業種：金融業、その他サービス業		
第13回	海外の事例国・都市：西ヨーロッパ諸国 (特に、パリとロンドン)		
第14回	海外の事例国・都市：東南アジアなど途上国 (特に、上海とバンコック)		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	なし		
参考文献・資料	<p>三浦俊彦他『グローバル・マーケティング戦略』有斐閣アルマ、2017年。</p> <p>和田充夫他『マーケティング戦略』第5版、有斐閣アルマ、2016年。</p> <p>石井淳蔵他『1からのマーケティング』第3版、碩学舎 (中央経済社)、2014年。</p> <p>石井淳蔵他『ゼミナール マーケティング入門』第2版、日本経済新聞出版社、2013年。</p> <p>坂元浩一『教養系の国際経済論—総合的理解から次の一歩まで—』大学教育出版、2012年。</p> <p>坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』大学教育出版、2010年。</p> <p>高橋秀雄『サービス業の戦略的マーケティング』第2版、中央経済社、2004年。</p>		
成績評価の方法	【小テスト・レポート (40%)、定期試験 (60%)】		
オフィスアワー	月曜日・火曜日 14:40~16:40 (それ以外の日時でも在室時は相談に応じます)		
学生へのメッセージ	<p>サービスに関するマーケティング論は比較的に新しい分野ですが、経済に占める圧倒的な比重を占めるのがサービス業です。また、コンビニやスターバックスなど、皆さんの生活の中でよく目に触れる商品や食品のサービスが対象です。本授業では、身近な商品なども取り上げながら、サービス・マーケティングに関する全体的な内容と主な戦略・方針を理解してもらいます。</p> <p>国内のサービス業のみならず、世界規模でのサービス・マーケティングについても、事例を挙げながら授業を行います。筆者のこれまでの多くの海外経験を生かして、主な国や都市におけるマーケティングの展開について説明します。例えば、次の都市です (カッコ内は訪問回数)。パリ (20回)、ロンドン (10回)、タイのバンコック (10回)、フィリピンのマニラ (10回)、上海 (7回)、北京 (5回)、ケニアのナイロビ (5回)、マドリッド (3回、2016-17年訪問)。</p> <p>例えば、パリについては、歴史的背景から高級チョコレート・ブランドまで幅広く、フランスのブランド戦略を論じます。ロンドンではピカディリー/オックスフォード・サーカス地区とパディントン地区におけるスターバックスなどの多国籍企業の展開を説明します。上海ではアジア随一の繁華街、南京歩行街を取り上げて、日本のコンビニを含む多国籍企業のサービス業進出の状況を把握します。</p> <p>上記の大都市の地図を見ながら、教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんがサービス・マーケティングをより身近に捉えられるようになると思います。</p>		

科目名	現代ファイナンス論Ⅱ	科目分類	■専門科目群 (第1グループ)
			□総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Theory of Modern Finance II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位
授業のテーマ	複雑な金融取引における合理性と、基本的な分析技法を中心に学習する。		
授業概要	現代ファイナンス論Ⅰの学習内容を深めて、より専門的かつ実践的に学習する。		
到達目標	自らが直面するファイナンスに関する課題に対して、学習したことを基にして主体的に考えることができるようになること。		
授業時間外の学習	定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。		
履修条件	現代ファイナンス論Ⅰと金融機関論を履修済みか、または同時履修して欲しい。		
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。		
第1回	テーマ：ファイナンスの面白さ モラル・ハザード、リスクヘッジ、投資行動と心理		
第2回	テーマ：投資の評価方法① 収益率の比較か？それとも初期投資額の比較か？		
第3回	テーマ：投資の評価方法② n期間を想定した2つの評価方法		
第4回	テーマ：投資の評価方法③ 正味現在価値法		
第5回	テーマ：投資の評価方法④ 内部収益率法		
第6回	テーマ：投資の評価方法⑤ ゴールシークを用いた計算方法		
第7回	テーマ：応用的な株価決定モデル① 一定成長 DDM		
第8回	テーマ：応用的な株価決定モデル② 株価マネージメントとインサイダー情報		
第9回	テーマ：リスク管理① リスクの定量化。「リスクって悪いものなの？」		
第10回	テーマ：リスク管理② リスクの定量化。「リスクの大きさをどう測定するのか？」		
第11回	テーマ：リスク管理③ ポートフォリオの期待収益率とリスクの定量化。		
第12回	テーマ：リスク管理④ 証券の収益率の相関係数とポートフォリオ		
第13回	テーマ：リスク管理⑤ 不確実性下の投資決定行動と2パラメータアプローチ		
第14回	テーマ：リスク管理⑥ 最小分散ポートフォリオと最適ポートフォリオ		
第15回	テーマ：リスク管理⑦ CAPM の考え方		
第16回	定期試験		
テキスト	晝間文彦『基礎コース金融論』（第3版）、2011年（金融機関論と同じテキストです。）		
参考文献・資料	ボディ・マートン『現代ファイナンス論』（原著第2版）ピアソン桐原、2011年（著者はノーベル賞受賞者）		
成績評価の方法	期末試験 60%、課題 30%、コメントシート 10%の合計を基に評価する。 確認問題を配布する。受講者は自らの理解度を確認するためにも必ず解答すること。 試験については努力が報われるような出題を心がける。		
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		
オフィスアワー	月・水・金曜日の5限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中は原則として質問に応じる。		
学生へのメッセージ	第13回目以降では、複雑な理論についても言及する。受講者の積極的な学習姿勢を期待する。ただし、数式の厳密な展開よりも、考え方をより重視する。		

科目名	地域経済政策論	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済	
			経済	
英文表記	Regional Policy of Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 ■4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業概要	秋田が抱える課題を考察するとともにアベノミクスの地方創生法に活路を見出す			
到達目標	地域経済の現状と課題の整理と課題の解決策を自ら考える			
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと			
履修条件	地域に関心を有していること			
授業計画				
第1回	アベノミクスと地方創生①～戦後日本経済と地方経済 なぜ地方は東京の黒子になり下がったのか			
第2回	アベノミクスと地方創生②～少子化を生んだ秋田の産業政策の混乱			
第3回	情報通信産業振興政策と地域経済～日本の中堅企業が日本経済の成長エンジン			
第4回	地方産業インフラ整備と地域経済①～震災復興は何処まで来たのか			
第5回	地方産業インフラ整備と地域経済②～移動革命の実現 HVからEVへ 脱炭素革命への認識は如何			
第6回	地方経済が一気にグローバル化する可能性～北上におけるILCは			
第7回	地方創生と産業クラスター論～サプライチェーンの次世代化			
第8回	コネクテッドインダストリーズと秋田の産業振興策～飯田市における航空宇宙産業			
第9回	秋田のリーディング企業～世界的な高シェア企業・世界最先端の技術～同和鋳業を事例に			
第10回	秋田の地域政策・都市政策～まちづくりの基礎 5Gで都市はどう変わるのか 20代に任せてみたら！			
第11回	増田レポートの根本的認識の違い～スモールの経済 限界集落からの脱却と古民家空き家ビジネス			
第12回	国家戦略特区～事例分析を中心に①新潟市の最先端農業の可能性			
第13回	国家戦略特区～事例分析を中心に②湯沢市の高齢社会におけるITリテラシー			
第14回	地域成長支援ファンドとハンズオン投資そしてICO～広がる地方の選択と成長可能性			
第15回	激変する社会経済と秋田の可能性 克服すべき課題とは 如何に過去の成功体験を振り切れるか			
第16回	期末試験			
テキスト	プリント配布			
参考文献・資料	追って連絡します			
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。			
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降入学した学生】 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。			
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日			
学生へのメッセージ	秋田を元気にするために何が必要かを一緒に学びましょう			

科目名	人的資源管理論	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Human Resource Management	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	い ちよん みん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	李 廷 珉	修得単位	2 単位	
授業のテーマ	戦略的な人材マネジメントー企業が本当に求める人材とはどんな人か。			
授業概要	<p>企業に本当に求められている人材とは一体どのような人だろうか。</p> <p>現場の人事担当者は入社から勤労管理、そして退社まで、勤労者に対して、広範囲にわたる管理を行うジェネラルマネジャーのことを言います。人事担当者は、会社の成長や業績への貢献度だけではなく、勤労者本人の人的成長にも配慮し支援し評価をします。日本を代表するグローバル企業の創業者たちは、「育てる経営」の側面を重要視し、経営人事に「育てる喜びと学ぶ喜び」を取り入れました。ですから、人事担当者の仕事においては、勤労者たちが仕事をすることによって自信を得、そのことを自身の生活に活かしてくようにすることが重要だったのです。</p> <p>この講義では、上記の人事経営の諸論点に関して、戦略的な人材マネジメント（いかにして企業の目標を達成するか）という立場から、アメリカでの議論と日本企業の人事経営の事例を詳しく比較検討し、どんな人材が現代の日本企業に本当に求められているかを考えます。</p> <p>就職活動を頑張りたいと考えている諸君に役立つような、そういう講義をめざします。</p>			
到達目標	物的資源と人的資源の違いを知り教養のある専門家をを目指す			
授業時間外の学習	1. 新聞、その他の経済誌、何れかのうち、一つを選び、継続して読んでいく習慣をつけて下さい。 2. 暇を見つけては、図書館へ行き情報を収集し、先生方の研究室へ行き議論を仕掛けて下さい。			
履修条件	現代経済入門、日本経済論、経営学基礎論、経営管理論、経営戦略論を受講することが望ましい。			
授業計画				
第1回	人材マネジメントの考え方			
第2回	人材マネジメントの活動			
第3回	人的資源の獲得			
第4回	経営戦略と人材育成			
第5回	リーダー人材の育成			
第6回	人材評価の考え方			
第7回	評価の公平性			
第8回	人材の処遇の与え方・考え方			
第9回	インセンティブ制度の設計			
第10回	人材フローの考え方			
第11回	内部労働市場			
第12回	人材の尊重（稲盛和夫他）			
第13回	雇用の外部化			
第14回	非正規従業員の人事マネジメント			
第15回	雇用構造の変化と企業の競争力			
第16回	定期試験			
テキスト	講義資料を配付する			
参考文献・資料	守島基博『人材マネジメント入門』日経文庫、2011年。 小野豊明『経営学入門ー教養としての経営学』マネジメント社、1989年。			
成績評価の方法	【平常点（25%）、レポート（25%）、定期試験（50%）】			
成績評価基準	<p>【平成27年度（2015）以前に入学した学生】 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）</p> <p>【平成28年度（2016）以降に入学した学生】 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。</p>			
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00～14:30			
学生へのメッセージ	経営は組織体においてその運営や管理のために必ず必要な考え方です。この講義は社会における企業・組織の問題、その中で働く人間の問題に関心があり知りたいと思っている人を対象としています。			

科目名	刑法入門	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ)
			<input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)
英文表記	Introduction to Criminal Law	開講年次	法律 学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
			学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
ふりがな	あきやま えいいち	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	秋山 栄一	修得単位	2 単位
授業のテーマ	刑事法のトピックについてのハイライト		
授業概要	<p>刑事法学の分野には主に刑法学、刑事訴訟法学及び刑事政策学(刑事学)があるが、刑事法学の学習の基本は刑法学を理解することにある。本講義は、刑法学を中心とした刑事法分野の主要トピックについて概観することで、これから本格的に学ぶ刑事法学の導入的位置づけとなる。それぞれの学問分野のおおよその内容と考え方を理解し、それらの関連性も意識して進めていく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、マスコミなどによって報道される事件等を刑事法学の視点から考えることができる。 ・刑事法関連科目へのスムーズな移行を目指す。 		
授業時間外の学習	<p>まず、指定されたテキストを一度は必ず一通り読む。それを踏まえ、次回の講義の単元を読んで講義に臨む。併せて、日々の刑事事件等の報道に関心をもち、社会の出来事に目を向け、耳を傾けること。</p>		
履修条件	憲法入門、民法入門が履修済みであることが望ましい。		
授業計画			
第1回	ガンダンス、刑事法とは何か？		
第2回	犯罪と刑罰について考える ～刑法の特徴		
第3回	これも殺人事件か？ ～実行行為		
第4回	飲酒運転による殺人？ ～故意と過失		
第5回	咄嗟の行動にあなたは？ ～正当防衛と緊急避難		
第6回	責任無能力者は犯罪ができない？ ～心神喪失と心神耗弱		
第7回	人の始まりと終わり ～生命と刑法		
第8回	書店での立ち読みが犯罪 ～財産犯		
第9回	ネット社会とポルノ ～わいせつ罪		
第10回	疑わしいとは？ ～刑事手続きと被告人の利益		
第11回	冤罪事件とは ～捜査と公判		
第12回	市民の司法参加とは？ ～裁判員制度		
第13回	人はなぜ犯罪を犯すのか ～犯罪原因論		
第14回	犯罪者はどのように処遇されているか？ ～犯罪対策論		
第15回	少年は特別な存在か？ ～少年法について		
第16回	定期試験		
テキスト	井田 良『基礎から学ぶ刑事法〔第6版〕』有斐閣 2017		
参考文献・資料	佐久間修・高橋則夫・宇藤崇著『いちばんやさしい刑事法入門』〔第2版〕2007 有斐閣、三井誠・曾根威彦・瀬川晃編『入門刑事法』2017〔第6版〕有斐閣等、適宜、講義にて紹介する。		
成績評価の方法	試験を70%、小テスト10%、授業態度等を20%の割合で、厳正に評価する。		
成績評価基準	<p>【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p> <p>【平成28年度(2016)以降に入学した学生】 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) ※出席回数規定に満たない場合、試験を受けることができません。</p>		
オフィスアワー	原則として、火曜 9:00～10:30・火曜 14:30～16:10 ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい。		
学生へのメッセージ	指定テキスト・最新の六法・ノート・配布レジュメを必携のこと、また積極的な講義参加を望む。		

科目名	人 権	科目分類	■専門科目群(第1グループ) □総合科目群(第2グループ)
			法律学科 □必修 ■選択 観光学科 □必修 ■選択
英文表記	Human right	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	わたべ たかあき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	渡部 高明	修得単位	4単位
授業のテーマ	日本国憲法は、今日、国民的議論の対象となっている。 そうした中、人権の意義と憲法条文の解釈、および憲法判例の理解をテーマとする。		
授業概要	憲法の意義、日本国憲法の成立と展開、人権規定の内容と判例を、とりわけ戦後の憲法学をリードしてきた芦部信喜教授のテキストを中心に理解することで、現代人権論の基本的考え方を学ぶ。		
到達目標	憲法の存在意義と人権の必要性、具体的な裁判事例を理解することができる。		
授業時間外の学習	まずテキストを1回の授業分は必ず読んでくること。そして、単に講義を聴くだけでなく、自ら事件や裁判例を通して、人権の諸問題と大切さを考えましょう。従って、具体的判例へのレポートを求めることがあります。また、毎日の新聞・ニュースに目を通すことをすすめます。		
履修条件	憲法入門、統治機構を履修していることが望ましい。		
授業計画			
第1回	憲法とは何か、近代憲法の現代的展開	第17回	信教の自由
第2回	憲法と立憲主義	第18回	学問の自由
第3回	大日本国憲法と日本国憲法	第19回	表現の自由 I
第4回	日本国憲法の成立過程	第20回	表現の自由 II
第5回	人権宣言の歴史	第21回	集会結社の自由・通信の秘密
第6回	人権の概念・人権の内容	第22回	経済的自由権 I
第7回	人権の享有主体	第23回	経済的自由権 II
第8回	人権の限界—公共の福祉	第24回	人身の自由 I
第9回	二重の基準論・特別権力関係	第25回	人身の自由 II
第10回	私人間の人権保障	第26回	生存権
第11回	個人の尊厳と幸福追求権	第27回	国務請求権、参政権
第12回	法の下での平等 I	第28回	教育をうける権利
第13回	法の下での平等 II	第29回	労働基本権 I
第14回	思想良心の自由	第30回	労働基本権 II
第15回	振り返り学習	第31回	振り返り学習
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験
テキスト	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第六版』(岩波書店)		
参考文献・資料	憲法判例百選1・2(有斐閣)		
成績評価の方法	試験(80%)、レポート(10%)、毎回のコメントシート(10%)		
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降に入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		
オフィスアワー	毎週木曜日5限目と金曜日4時限目		
学生へのメッセージ	憲法の重要性と現実性を考えていきましょう。		

科目名	観光論入門Ⅱ		科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)
			観光学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Introduction to Tourism Theory II		開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	いのうえ ひろし		開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	井上 寛		修得単位	2単位
授業のテーマ	「観光」のキーワードを学ぼう			
授業概要	観光論入門Ⅰに続き、これから4年間観光を学ぶ上で必要な知識や考え方を学びます。特に、最新の観光について学ぶことを重視しますので、新聞やニュースの出来事を講義でも取り入れていきます。			
到達目標	観光学とはどのような学問なのか全体的に理解することができる			
授業時間外の学習	教科書はやや難解な部分があると思いますが、予習・復習時に目を通して下さい。新聞やテレビ、インターネットには「観光」の話題が豊富です。常日頃より観光のニュースに関心を持って生活してください。			
履修条件	必修科目に指定されていませんが、観光学を学ぶ上で基本となりますので、観光学科1年生は観光論入門Ⅰ(前期)と併せてこの科目を受講することをお勧めします。			
授業計画				
第1回	諸外国の観光政策			
第2回	地域観光とまちづくり			
第3回	旅行産業の現状と展望			
第4回	宿泊産業の新しい展開			
第5回	運輸産業の特質			
第6回	テーマパーク産業			
第7回	文化施設と集客			
第8回	観光産業とホスピタリティ			
第9回	コンテンツツーリズムとまちおこし			
第10回	ブライダルツーリズムの可能性			
第11回	アジアにおけるメディカルツーリズムの勃興			
第12回	ダークツーリズムの概念の登場と拡散			
第13回	フードツーリズムによる地域活性化			
第14回	祭礼文化と観光			
第15回	復習			
第16回	定期試験			
テキスト	竹内正人他 編著『入門 観光学』ミネルヴァ書房 2018年 (2,800円+税)			
参考文献・資料	週刊「観光経済新聞」 ※図書館1階にあります			
成績評価の方法	①定期試験(50%)…知識を問う問題と論述問題を課します ②レポート課題(20%)…パソコンで作成し提出してもらいます。正当な理由なく提出期限を守らなかった場合は加点しません。 ③小レポート(15%)…毎時間出席カードの裏面に書いてもらいます。なお、課題に対して満足に解答する姿勢が見られない場合は、加点しない場合があります。 ④平常点(15%)…遅刻、マナー違反(私語・携帯操作・途中無断退席など)は加点しないほか、悪質な場合は欠席扱いとします。			
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。			
オフィスアワー	① 毎週月曜 10:40~12:10 ②毎週金曜 13:00~14:30			
学生へのメッセージ	観光の分野は新しい「アイディア」が大切です。既成概念にとらわれず、柔軟な発想で新しいアイディアを提案できるように日頃よりトレーニングしましょう。			

科目名	アジアの観光事情	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			観光学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Sightseeing circumstances of Asia.	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	よこた けいざぶろう	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	横田 恵三郎	修得単位	2単位
授業のテーマ	益々日本とアジアとの関連な観光交流が見通される中、まず UNESCO の三大遺産事業についてその概要を学習し、次に日本を含め多くの遺産を擁するアジアについて、各国の遺産に触れることによって似て非なる歴史、文化、社会等を抱える各国の事情や特徴について理解し、知識を深める。		
授業概要	UNESCO の三大遺産事業の仕組みや概要、アジア各国の基礎知識、代表的世界遺産、文化や習慣等に関心を持ち理解できるように、画像、映像等をも活用しながら講義していくこととします。アジア各国にはそれぞれに特徴がありますが、それらを学習してアジアへの理解を深めていきます。		
到達目標	UNESCO の三大遺産事業とそれに基づくアジア各国の代表的世界遺産を通して、各国の特徴ある文化や習慣についての理解を深めることが出来ます。将来、学生の皆さんがアジアの国々を訪問することを想定して、予め知っておいた方が良い基本的な知識が得られます。		
授業時間外の学習	基本的な内容について復習テストを頻繁に行います。日頃から旅行番組や旅行雑誌に触れるようにして下さい。		
履修条件	将来、アジアに留学したり、関係する仕事に就きたいと思っている人は是非履修してください。また各国はそれぞれ異なる特徴ある観光事情を有しています。夫々を混同させぬよう復習を怠らないこと。		
授業計画			
第1回	ガイダンス アジアの地理を知る。		
第2回	UNESCO 三大遺産事業とは		
第3回	復習テスト 世界遺産登録のプロセスと仕組み		
第4回	世界文化遺産、世界自然遺産、世界複合遺産とは①		
第5回	復習テスト 世界文化遺産、世界自然遺産、世界複合遺産とは②		
第6回	復習テスト 無形文化遺産とは①		
第7回	無形文化遺産とは② 日本の世界遺産、無形文化遺産		
第8回	世界の記憶とは 復習テスト		
第9回	インドの代表的世界遺産と歴史、文化の特徴		
第10回	復習テスト 中国の代表的世界遺産と歴史、文化の特徴		
第11回	タイの代表的世界遺産と歴史、文化の特徴		
第12回	インドネシア、マレーシアの代表的世界遺産と歴史、文化の特徴		
第13回	復習テスト 韓国の代表的世界遺産と歴史、文化の特徴		
第14回	ベトナム、カンボジアの代表的世界遺産と歴史、文化の特徴		
第15回	ラオス、ミャンマー、ネパールの代表的世界遺産と歴史、文化の特徴 まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	毎回、関連する資料を配布します。		
参考文献・資料	授業中に紹介します。		
成績評価の方法	定期試験 50%、授業態度・取組姿勢 50%とし総合評価します。		
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降に入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		
オフィスアワー	① 毎週火曜 午前中 ②毎週木曜 午前中		
学生へのメッセージ	観光関連企業への就職を考えている皆さんはもちろんのこと、一般企業であれ公務員であれ仕事に就けば必ずや海外とりわけアジアの国々(人々)との関わりがでできます。その時に戸惑うことなくアジアの知識を身に付け、頭の中を整理しておきましょう。		

科目名	楽しい海外旅行をするために	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)	
			観光学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	To Enjoy Travelling Abroad	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年	
ふりがな	つかはら ゆうじ	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中	
担当者名	塚原 雄二	修得単位	2単位	
授業のテーマ	海外旅行を楽しむためのノウハウを学習する。			
授業概要	航空、ホテル、レストラン、安全・マナー等海外旅行の必須要素を学ぶ。			
到達目標	旅のインフラが整った先進国等へは個人手配で旅ができるようノウハウを修得する。			
授業時間外の学習	世界各地の政情から個々の観光地の情報にいたるまで、旅に関するメディア等の情報に注目しておく。できれば夏休み、春休みを利用して海外旅行にトライしましょう。			
履修条件	海外旅行に興味がある人、まだ経験のない人も歓迎			
授業計画				
第1回	オリエンテーション。 ・外国旅行の現状 ・エアラインを知る1 (エアラインのネットワーク)			
第2回	エアラインを知る2 (日本と世界のエアライン)			
第3回	エアラインを知る3 (空港の手続き)			
第4回	エアラインを知る4 (機内サービス他)			
第5回	ホテルを知る1 (ホテルの歴史)			
第6回	ホテルを知る2 (ホテルの客室)			
第7回	ホテルを知る3 (ホテルの朝食、ホテル以外の宿泊施設他)			
第8回	レストランを知る1 (主な国の料理)			
第9回	レストランを知る2 (パリレストラン紙上体験)			
第10回	レストランを知る3 (同上)			
第11回	レストランを知る4 (ワイン、イタリアンと中国料理)			
第12回	旅の準備、安全、マナー1 (旅の準備)			
第13回	旅の準備、安全、マナー2 (旅の安全)			
第14回	旅の準備、安全、マナー3 (旅のマナー)			
第15回	映画を通して海外旅行を考える			
第16回	定期試験			
テキスト	使用しません。 配布物 (プリント) またはスライドによって授業を行います。			
参考文献・資料	その都度案内します。			
成績評価の方法	定期試験70%、その他30% (レポート、授業参加度等) を基本として総合的に評価します。 出席回数が規定に満たない場合は試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。			
成績評価基準	【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 【平成28年度(2016)以降入学した学生】 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)			
オフィスアワー	木曜日 14:30-18:00 金曜日 10:30-15:30、授業の前後やメール等で事前にリクエストしてください			
学生へのメッセージ	海外旅行は楽しみだけでなく、自分の成長にもつながるものであり、世界の人々との友好関係を築くものでもあり、素晴らしい体験です。しかしその為には一定の知識とノウハウが欠かせません。この授業でそのポイントをしっかり修得して自分の旅にぜひ生かしてください。			